

インフルエンザ

○どんな病気？

毎年冬季を中心に、晚秋から早春にかけて流行がみられます。他のかぜのウイルスとくらべて、症状が重く、感染力がとても強いのが特徴です。

○感染経路は？

- ・飛沫感染：咳、くしゃみ、鼻汁
- ・空気感染：咳、くしゃみで飛び散ったウイルスは長時間空气中を浮遊して空気感染を起こします。

○潜伏期間：48～72時間（平均2日）

○どんな症状？

- ・発熱：急激に上昇する発熱で発症します。発熱持続時間は2～5日間です。時々、二峰性の熱を認めることがあります（一度さがった後、もう一度上がる熱のことです）。
- ・筋肉痛、関節痛、頭痛、食欲不振
- ・咳・鼻汁・くしゃみ・咽頭痛
- ・吐き気・腹痛などのおなかの症状を認めることもあります。

○合併症：・肺炎、気管支炎 ・熱性けいれん ・脳炎、脳症 ・心筋炎、心膜炎

○検査方法：迅速検査→鼻の奥の粘液を取って調べます。発熱後6時間で検査可能です。

○治療方法は？

- ・飲み薬：タミフル

5日間内服します。解熱しても、5日間飲み続けることが大切です。

発熱して48時間以内に内服すると症状が軽くなります。

- ・ゾフルーザ

5歳以上のお子さんに処方します。1回の内服で治療終了です。

- ・吸入薬：リレンザ

5歳以上のお子さんに、1回2吸入、1日2回、5日間の吸入になります。

解熱しても5日間はしっかり吸入します。

- ・イナビル

発熱して48時間以内に吸入開始すると症状が軽くなります。

10歳未満は20mg(1容器)、10歳以上は40mg(2容器)を1回分として吸入します。

・インフルエンザによる熱せん妄（異常行動・言動）は服用にかかわらずよく見られる症状です。お子さんがインフルエンザと診断された場合、抗ウイルス薬の服用の有無にかかわらず、お子さんの行動に十分注意してください。

インフルエンザと診断された患者様・ご家族へ ご理解いただきたいこと

1. 幼児・小児の患者様は、万が一の事故を防止するために次のことに御配慮下さい。

インフルエンザ感染時は異常行動を起こすことがありますので、少なくとも2日間は保護者の方はお子様が一人にならないように配慮をお願いします。

※異常行動などの症状とは、普段と違うとっぴな行動をとる、うわごとを言ったり興奮したりする、意識がぼんやりする、意識がなくなる、幻覚が見える、妄想、けいれん等。

インフルエンザのお薬の処方内容に関わらず、
インフルエンザと診断された未成年の方からは、2日間は目を離さないでください。

2. その他の注意点

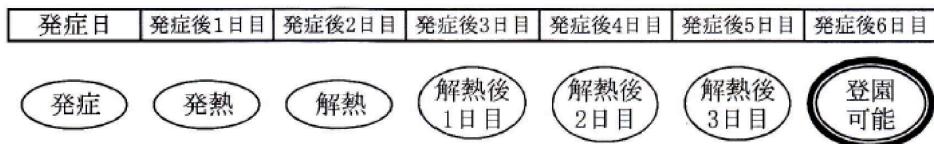
消化器症状(腹痛、下痢、嘔吐等)、皮膚症状(発疹、じんましん等)が現れることがあります。

その他、何度も吐く、強い咳で眠れないなど何かいつもと違うと思ったら再受診してください。

けいれんをおこしたら、至急、病院へ行きましょう。

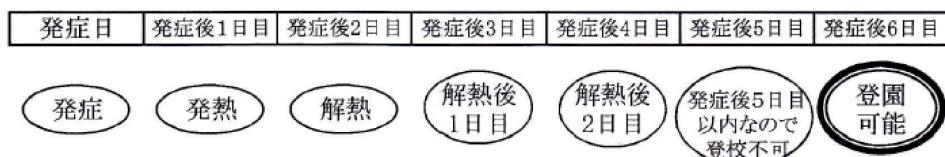
3. インフルエンザの出席停止期間の数え方

(乳幼児・未就学児の場合) 解熱後3日が経過していることに加え、発症後5日が経過している
例えば、発症後2日目に解熱した場合



(学童以上の場合) 解熱後2日が経過していることに加え、発症後5日が経過している

例えば、発症後2日目に解熱した場合



*発症とは、発熱の症状が現れたことを指します。

日数の数え方は発熱が始まった日を発症0日とし、翌日から発症1日目と考えます。

◎登園・登校許可書について

登園・登校許可書が必要です。再度受診してください。